

監修の序

2006年に薬学教育6年制がスタートした。以前の薬学教育は、知識重視で、技能や態度教育はほとんど施されてこなかった。病院や薬局に就職した薬剤師は、自己学習や経験によって、足りなかった技能の部分と態度の部分の部分を補ってきた。しかしこのような薬学教育が医療現場で活躍する薬剤師を求める社会のニーズに合わなくなったことから、臨床教育の充実が必要となり、学部の修業年限が6年となった。現在はモデルコアカリキュラムに従って教育が行われている。そして大学には、現場で経験を積んだ実務家教員が多く配属されることになった。しかし技能や態度の教育については、教科書や参考書がまだ少なく、実務家教員といえども大勢の薬学生を教えるのに苦慮している。

私が羊土社から本シリーズの発刊の話をいただいた時、いよいよ薬学も医学と同じような教育ができると確信した。それは羊土社から発行されている医師向けの『臨床研修イラストレイテッドシリーズ』を見た時、医師向けの臨床教育ではイラストを多用した書籍によって手技までもがわかりやすく解説されていたからである。それが大学だけでなく現場の医師に利用されていると聞き、このシリーズが実務中心であり、知識に偏らず細やかな手技にスポットを当てていることに注目した。近年、医学の飛躍の進歩と共に製剤技術や調剤機器も新しくなった。調剤手技もそれに合わせて進化したが、市販の解説書では旧来の調剤方法を踏襲するものでしかない。医師の臨床教育の世界で定評のある『臨床研修イラストレイテッドシリーズ』にならい、ビジュアルを重視し、実務のコツを解説した薬剤師向けの参考書を発刊できることは、この上もない喜びである。

本シリーズは1、2巻の「薬局編」と3、4巻の「病院編」からなる4冊構成であり、薬学生にとってはもちろん、病院や薬局で勤務する薬剤師にとって座右の書となることを希望する。6年制薬学教育では、実務実習前に共用試験が実施される。OSCEは知識ではなく技能と態度を評価するものであるが、本書はそのOSCEにも活用していただけるものと思う。本来ならば、OSCEに合格するためだけの参考書にした方が、薬学生諸君にはありがたいかもしれない。しかし、OSCEに合格するための手技と実際に現場で行われている手技では若干の違いがある。筆者はOSCEに充分活用できることと併せて、将来就職してからも役立つ参考書にしたいと考えた。薬学生や指導薬剤師のためにモデルコアカリキュラムの方略(LS)をリンクして示してある。さらに執筆者の多くは病院や保険薬局で実務をされている薬剤師であるため、手技を写真やイラストを多用してわかりやすく解説することだけでなく、それぞれの作業を行う上での心構えや倫理観についても考慮し、OSCEにありがちなロボットのような画一的な動きではなく、人間としての正しい動作を解説した。

将来薬剤師過剰時代を迎えることになるが、この“ビジュアル薬剤師実務シリーズ”がすべての薬剤師の質の向上に貢献することを願って止まない。最後に、執筆のお手伝いをいただいた阿部宏子先生、下平秀夫先生をはじめとするすべての執筆者と羊土社の秋本佳子様にご心より感謝する。

2008年9月

上村直樹